

2022 年度実施概要

学校名

阪南市立尾崎小学校

採択活動名

地域に根ざした海洋教育

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 海洋教育オリエンテーション	4～6年	総合
2. アマモ花枝採取、生き物観察	6年	総合
3. 漁業ってなに？ 尾崎漁港へ行ってみよう 私たちの漁業	5年	総合・社会
4. 海藻おしばをつくろう	3年	総合・図工
5. チリメンモンスターを探そう	2年	生活
6. ビーチコーミング ビーチプレートをつくろう	1年	生活・図工
ビーチコーミング 海の漂流物を使ってつくろう	2年	生活・図工
7. 臨海学舎	5年	総合
8. 私たちにできること（ポスター作成・校内掲示）	6年	国語
9. うみのかくれんぼ	1年	国語
10. 環境保全ポスター	4年	図工
11. 男里川から大阪湾へ（9月：男里川 10月：尾崎海岸）	4年	総合・理科
12. アマモ種子選別	6年	総合
13. 大漁旗を描こう	5年	図工
14. 漁師さんへの聞き書き（聞き書き、新聞作成・校内掲示）	5年	総合・社会
15. SDGsを知ろう	6年	総合
16. アマモ苗床づくり・播種	5年	総合
17. 私たちの海でワカメを育てよう	5年	総合
18. 育てたワカメを収穫しよう ワカメを佃煮にしてみよう	5年	総合・家庭科

取り組みの概要

<p>1. 概要</p> <p>本校は、男里川がすぐそばを流れており、河口から尾崎海岸へと繋がっていて、海洋教育を進めるうえでの立地的条件が整っている。海洋教育の一環として、この地域を活動の場とした取り組みを始めている。</p> <p>今年度も、海洋教育実施校（西鳥取小学校・下荘小学校・舞小学校・上荘小学校）との連携・交流および地域の尾崎漁業協同組合やNPO大阪湾沿岸域環境創造研究センター、男里川環境保全委員会と協働して取り組みを実施した。</p>
--

2. 目標

- (1) 「海」での活動の楽しさや生き物の多様性、アマモ場の環境保全活動、地域について知る。
- (2) 知りえたことをもとに、自分たちができる事を考える。
- (3) 考えたことを実行していく中で、身近な環境や地域を大切にしていこうとする心情や食への関心、思いを形にする実行力などを見につける。

3. 取り組み

【海に親しむ】海の自然に親しむ、海の多様性に触れる

○ビーチコーミング（7月）1・2年

近くの海岸を歩いて、生き物を探したり貝殻などを拾ったりする

拾ってきた貝殻などを用いてフォトスタンドをつくる

○チリメンモンスター探し（7月）2年

チリメンモンスターを探す活動を通して、海の生き物の多様性について知る

○臨海学舎（9月）5年

カヌーや筏に乗る活動を通して、海での楽しさに触れる

ウミホタルの観察を通して、海の生き物の不思議さに触れる

【海を知る】海の自然や資源・人との繋がりについて関心を持つ

○海藻おしば体験（7月）3年

海藻を用いて、絵葉書をつくる

○漁港見学（7月）5年

近くの尾崎漁港を見学し、漁師から漁船や漁具について学ぶ

○水辺の学校（9月）4年 →福島海岸・男里川

山川海の循環性について学ぶ

近くの男里川で、災害や水質について学ぶ

男里川やその河口で、生き物調査をする

○聞き書き学習（12月）5年

尾崎漁業協同組合の漁師を招き、漁師から人となりや海・漁業に対しての思いを聞く

【海を守る・利用する】海の保全活動を体験する、自分にできることを考えて実行する

○アマモ花枝採取・生き物調査・地曳網体験（6月）6年

尾崎海岸のアマモ場で、アマモの花枝を採取したり生き物調査をしたりする

○環境保全ポスターづくり（9月）4年

環境保全について調べ、環境に優しい取り組みを啓発するためのポスターをつくる

○アマモ種子選別（10月）6年

アマモの種子を選別する

○海岸清掃活動（11月）参加希望児童とその保護者・地域

男里川河口～えびの浜までの海岸線の清掃を行う

○アマモ苗床づくり・播種（11月）5年

○ワカメ種糸つけ（12月）・収穫（2月）5年

○ワカメ調理（2月）→収穫量が例年より減少し、実施できず

収穫したワカメを用いて、佃煮をつくる

○活動をまとめる（2～3月）5年

5年生の海洋教育での活動を振り返る様子を動画にまとめ、全校児童に向けて発信するとともに、次年度の活動への意欲を高める

4. 成果

- ・今年度より、副読本を活用することで、昨年度までの課題であった他教科との関連について、意識しながら活動に取り組むことができるようになってきた。
- ・年間の活動の具体的な見通しができるようになったこともあり、より質の高い他教科との関連づけが可能となった。例えば、地域の漁師さんへの「聞き取り学習（3年）」「聞き書き（5年）」では、国語科の「話すこと・聞くこと」の学習活動と関連付けて取り組むことは、海洋教育として体験するだけの活動ではなく、「言葉」の学びを一過性のものとしなない魅力的な言語活動の一つとして位置づけることができた。
- ・継続的なゲストティーチャーとのかかわりによって、海に関わる地域の人を身近に感じている児童が増えている。自分たちと一緒に活動してくれたゲストティーチャーが副読本にも登場していることもあり、人との出会いを通して地域の「海」への関心が高まった。

5. 課題

- ・地域への発信を増やしていきたい。（児童が地域に愛着を持ち、その発展を願う気持ちを育めるように）



5年生 漁港見学



5年生 聞き書き学習